内閣官房
内閣情報調査室

CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE

採用案内 2026

WHAT IS INTELLIGENCE?

内閣官房内閣情報調査室

〒100-8968 東京都千代田区永田町 1-6-1　内閣府庁舎 6 階

採用専用 / TEL. 03(5253)2107

直通 / TEL. 03(3581)5083

● 丸ノ内線 ● 千代田線
国会議事堂前駅 3 番出口 徒歩 5 分
● 銀座線
溜池山王駅 8 番出口 徒歩 10 分
● 南北線 溜池山王駅（千代田線ホーム経由）
国会議事堂前駅 3 番出口 徒歩 5 分

⬇採用情報はこちら

内閣情報官

原　和也

インテリジェンス改革の時を迎えて

2025年10月に発足した高市内閣の最重要政策の一つが総合的なインテリジェンス改革です。戦後最も厳しく複雑な安全保障環境において、我が国の国益を守り、国民の安全を確保するために政府が的確な意思決定を行う上で、適時適切な情報の収集・分析と、その政府部内での共有と活用が何よりも重要です。そのような観点から、今回のインテリジェンス改革は、時宜を得たものと言えます。我々内閣情報調査室は、1952年に内閣総理大臣官房調査室として発足して以来、幾たびの組織改編を経つつ、総理官邸直属の情報機関として「内閣の重要政策に関する情報の収集調査」を行うとともに、我が国インテリジェンス・コミュニティの中核としての各種業務を担ってきましたが、今まさに組織発足以来最大の変革の時を迎えようとしています。

インテリジェンス機能を強化する上で重要なことの一つとして、より客観的な情報が政策決定者に届けられるシステムを構築するということが挙げられます。平成20年2月に策定された「官邸における情報機能の強化の方針」においては、「適正な政策判断を行うためには、収集された情報を政策部門から独立した客観的な視点で評価・分析する別個の部門が必要」とされています。これは、仮に情報部門が政策部門の意向に配慮や遠慮をし、それに沿った情報の収集や分析を行えば、結果として適正な政策判断を阻害するおそれがあることを踏まえての記述です。この点を十分に踏まえ、我が国においては、現時点においても、情報と政策は有機的に連携しつつも、分離するとの原則が確立されてきています。今、改革の時に当たり、両部門が対等並立であることを制度的に担保することで、情報と政策の分離の原則をより一層強固なものとするため、我々内閣情報調査室を内閣官房における政策部門である国家安全保障局と同格の組織とすることが必要であると考えます。

職業選択の時を迎えた皆さん。インテリジェンスの世界は、小説や映画で描かれているような超人的な個人が縦横に活躍する世界ではなく、「チームスポーツ」の世界という方が適切であると考えます。情報収集や分析といった本来業務の在り方については勿論のこと、歴史的な変革の時にある今だからこそ、我が国をより安全にするため、どのような組織や制度が必要なのか、どの点を見直すべきなのかについて、様々な知識や経験を有するメンバーによる熱い議論や検討、そして、誠実な実行が必要です。そのようなチームの扉を、一人でも多くの皆さんが叩いてくれることを期待しています。

Contents

インテリジェンス概論 3
内閣官房と内閣情報調査室 4
内閣情報調査室～組織と役割～ 5-6
職員の声 7-12
衛星画像の分析 13
在外勤務・留学 14
キャリアパス 15
ワークライフバランス 16
1年目職員に聞いてみました 17-18
内調に関するQ&A 19
採用実績、待遇 20
採用スケジュール、採用担当者からのメッセージ 21
内閣情報調査室の歴史と発展 22

インテリジェンス概論

はじめに

皆さんは「情報機関」や「インテリジェンス」という言葉を聞いてどのようなイメージを持つでしょうか。映画やドラマで描かれるような、ヒーローやヒロインの活躍だったり、権謀術数や策略が巡る世界だったりするでしょうか。しかし、こうした世間一般に抱かれるイメージとは異なり、情報の世界は、地道で丁寧な仕事の積み重ねです。

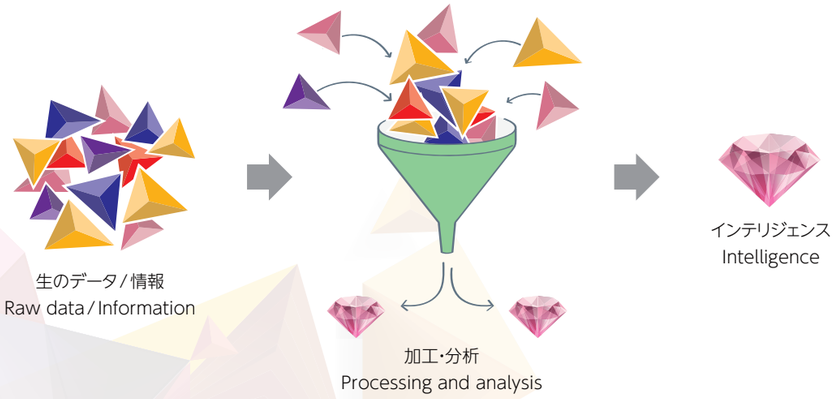
ここでは、特定の個人に脚光が当たるというよりは、むしろ「チームプレー」が重視されます。しかし、チームプレーの世界であるからこそ、様々なバックグラウンドを持つ人材が輝く世界でもあります。そんな情報機関の仕事、インテリジェンスの世界を皆さんにご紹介します。

「インテリジェンス」とは

政策決定者が的確な政策判断や意思決定を行うためには、良質な情報が必要となります。しかし、情報（インフォメーション）がただ集まるだけでは、必ずしも役に立ちません。そこで、情報機関が、インフォメーションを集約・整理・分析することにより、政策判断・意思決定に活用できる成果物（プロダクト）に加工することが求められます。こうした一連のプロセスや成果物そのものを「インテリジェンス」と呼びます。

内閣情報調査室は、自ら情報の収集・分析を行うとともに、関係省庁が保有する関連情報や資料を集約・分析し、総理大臣・官邸や政府内に「インテリジェンス」を提供する任務を担っています。

内閣広報室提供



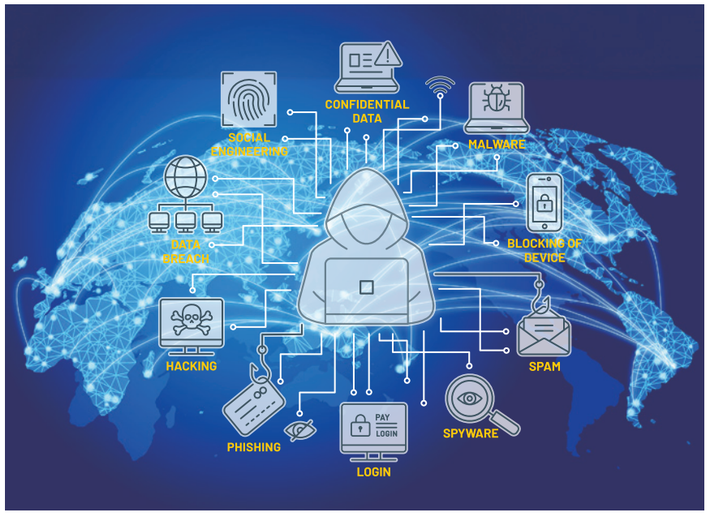
混迷を深める国際社会と国家の意思決定に不可欠な「インテリジェンス」

今、国際秩序は、パワーバランスの歴史的な大変化と地政学的競争の激化に伴い、大きく揺らいでいます。

インド太平洋地域を含め、世界各地で法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序への挑戦が続いているほか、電子戦やAIなどを駆使した「新しい戦い方」も登場しています。安全保障環境の変化は、様々な分野で加速度的に生じています。

加えて、私たちの生活の身近なところでも、インターネット空間を舞台に、外国からのサイバー攻撃、偽情報拡散を含む情報戦・認知戦が日常的に繰り広げられています。

このような複雑で厳しい国際環境において、インテリジェンスの重要性はますます高まっています。



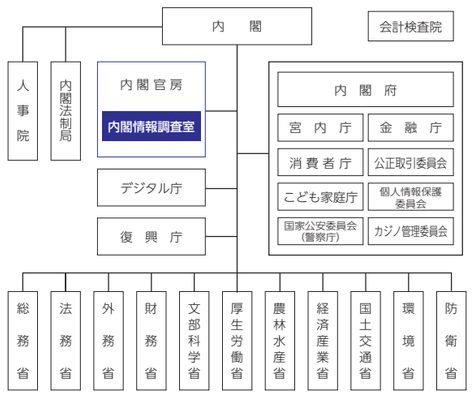
内閣官房と内閣情報調査室

内閣情報調査室は、内閣と内閣総理大臣を支える内閣官房に属しています。

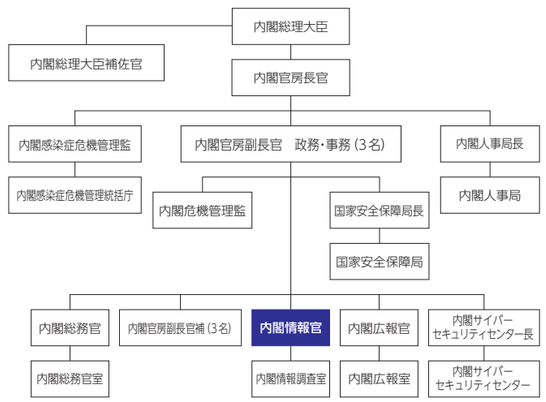
内閣官房には様々な部局が設置されていますが、このうち、内閣情報調査室は、内閣を情報面で支えるべく、国内外の情勢、国際テロや経済など幅広い分野を対象に情報収集・分析を行っています。

※内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」と定められており、非常に幅広い分野を対象としています。

中央省庁機構図



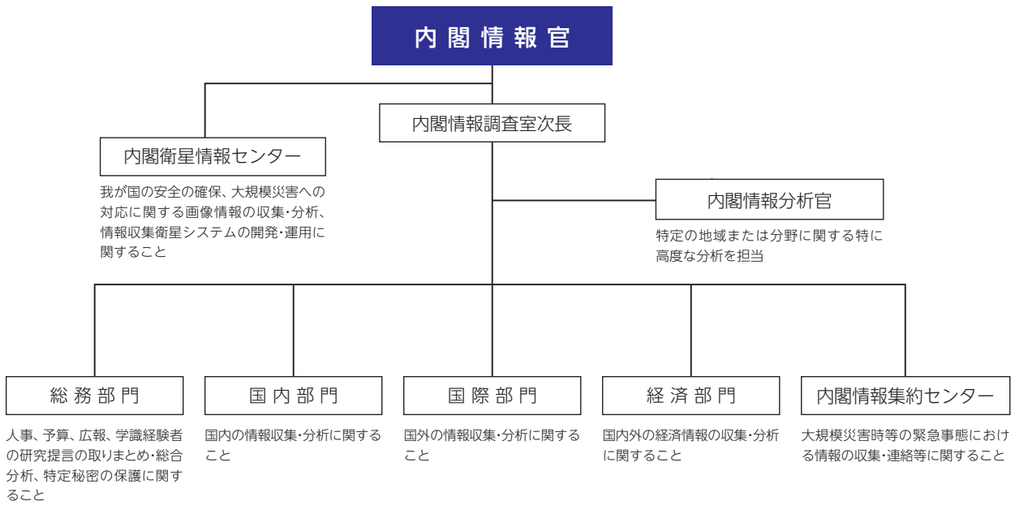
内閣官房



内閣情報調査室 ～組織と役割～

内閣情報調査室は、総務部門・国内部門・国際部門・経済部門・内閣情報集約センター・内閣衛星情報センターなどで構成され、それぞれの専門性を活かしながら、情報の収集・分析を行っています。また、我が国のインテリジェンス・コミュニティの「ハブ」として、関係省庁が保有する情報や資料の集約・共有を担っています。

このような取組を通じて、内閣情報調査室は、内閣の政策判断・意思決定を支える「インテリジェンス」を日々生み出しています。



国際テロ情報集約室

（室長：内閣官房副長官（事務）、室長代理：内閣情報官）

国際テロ情報収集ユニットの活動の調整、国際テロ情報の集約、その他の国際テロ情報の収集調査に関する連絡調整等

カウンターインテリジェンス・センター

（センター長：内閣情報官）

カウンターインテリジェンス機能の強化に関する基本方針の施行に関する連絡調整、国外の情報機関による情報収集活動から我が国の重要な情報や職員を保護すること

1. 総理大臣などへの「インテリジェンス」の提供

国家の進むべき方向性を的確に決定するためには、総理大臣・官邸に対してタイムリーな情報を届ける必要があります。その役割を担っているのが内閣情報調査室です。

内閣情報調査室を率いる内閣情報官から総理大臣などに対して、毎週定例の報告を行っているほか、特に重要な情報や緊急を要する情報については随時報告を行っています。そのため、各部門が、日々、スピード感をもって、情報収集・分析に当たっています。

2. 政策部門と情報部門をつなぐ「ハブ」

我が国には、内閣情報調査室のほかにも、警察庁、外務省、防衛省、公安調査庁等の情報関係省庁が存在し、「インテリジェンス・コミュニティ」を形成しており、内閣情報調査室はその中核に位置します。

インテリジェンス・コミュニティが的確な情報収集・分析を行うためには、政策部門が必要とする情報、つまりリクワイアメントを把握し、それを踏まえたインテリジェンスを政府内で共有し、循環させていくことが不可欠です。

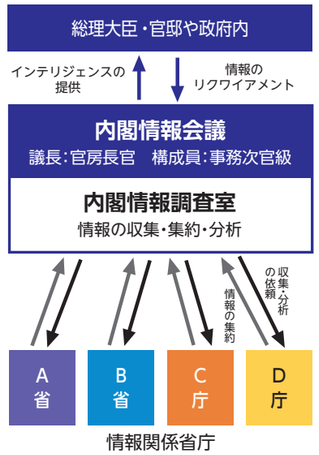
情報と政策は、分離しつつも密接にリンクしています。重要な政策の決定は、客観的なインテリジェンスに基づいて行うことが求められます。両者は、インテリジェンスのリクワイアメントと提供を繰り返し、そうした関係性を保った上で有機的なインテリジェンスサイクルを形成しています。

内閣情報調査室は、内閣としての政策上の関心や分析結果を共有する場である内閣情報会議等を運営するなど、政策部門とインテリジェンス・コミュニティをつなぐ「ハブ」として機能しています。

また、インテリジェンス・コミュニティ間での情報共有のための基盤及び人的基盤の整備にも取り組んでいます。

インテリジェンス・コミュニティ

政策部門



内閣広報室提供

Pick up! 職員の声

我々内閣情報調査室（内調）職員は「インテリジェンスの提供によって政策部門の意思決定を支援する」という共通の使命を持っていますが、個々の職員の業務については非常に多様性に富んでいます。

情報機関の性質上、具体的かつ詳細な内容は明らかにできませんが、どのような職員が、どのような思いを持って、どのような業務に取り組んでいるのか紹介します。

インテリジェンス・コミュニティの結節点 ～内閣情報会議と合同情報会議の運営～

30代の中堅職員。大学時代の専攻は政治学。現在は配偶者と子供２人の４人暮らし。趣味は古い映画・ドラマの鑑賞。情報を扱う仕事をしている反動からか、情報の少ない作品に惹かれます。

私は、官房長官を議長とする「内閣情報会議」と、官房副長官を議長とする「合同情報会議」の運営を担当しています。いずれも我が国インテリジェンスの中心となる会議であり、その円滑な運営はインテリジェンス・コミュニティ各省庁の連携の土台となる重要な役割です。

業務の中心は、官邸幹部や関係省庁幹部といった多忙な出席者の日程調整、正確性と分かりやすさが求められる会議資料の作成・確認、そして当日の進行管理です。

内閣情報会議では、各省庁の情報活動の指針となる文書を策定しています。当該文書が最新の国際情勢や国内情勢を踏まえた内容となるよう全体的な方針を検討し、当室の各担当に文章の作成を依頼。当室で作成した案を各省庁と共有し、各省庁の意見も集約した上で会議に諮っています。一つの事象に対しても、インテリジェンス・コミュニティ各省庁で異なる見方をしていることが多々あり、文書の作成過程においてそうした多様な分析に触れることができるのは、インテリジェンス・コミュニティの結節点である当室ならではの業務だと思います。各省庁との調整が難航することもありますが、文書が会議で無事に策定された際にはそれまでの苦労が報われた感じがします。

合同情報会議では、当室を含む各省庁の分析を共有しています。私自身も以前は分析業務に携わっていた経験があることから、各省庁の分析担当者の努力の成果が日の目を見る場を運営できていることに深い感慨を感じます。

内閣情報会議は今後、発展的に解消し、総理大臣を議長とする「国家情報会議」が設置される見込みです。インテリジェンス・コミュニティにおける当室の役割は、これまで以上に重要になると思います。皆さんがその役割を担ってみませんか。

「内調の顔」として各国情報機関との協力を推進 ～渉外業務～

30代の中堅職員。大学時代は安全保障を中心とした国際関係を専攻。ゼミで学んだ米国の政治体制や安全保障政策に関する知識は、国際会議への出席時や各国情報機関員とのミーティング時の「背骨」として非常に役立っています。

渉外担当は、内調の対外的な窓口として、内調内の各部門と各国情報機関などとの間の「橋渡し役」を担っています。渉外担当では、各国の情報機関職員と日常的にコミュニケーションを取り合い、情報交換や各種専門分野に関する協議を行うとともに、情報機関同士の協力関係を構築しています。

例えば、海外において武力紛争が発生した際には、各国の情報機関などと臨時のミーティングを行い最新の情勢や今後の見通しに関する情報交換や分析結果の交換を行います。また、内閣情報官の出張や国際会議への出席による機関長レベルでの関係構築、担当官の出張による機関間の連携の維持などにも取り組んでいます。

国家に属する機関同士の協力関係というと、既に出来上がった安定したものをイメージされる方も多いかもしれません。しかしながら、実際には、機関同士の関係も、人と人との関係と同様に、日々の業務を通じた細かな信頼関係の積み重ねの上に成り立っています。渉外の業務は、いわば「内調の顔」として、こうした機関同士の信頼関係を維持・発展させていく仕事です。

内調は、世界中の様々な情報機関などと関係を構築しています。我々のカウンターパートとなる外国情報機関員には、人種、語学、宗教など多様なバックグラウンドの相手がいることから、日本と異なる文化や宗教などへの「異文化理解」が業務上不可欠です。そうした文化の壁を越えつつ、カウンターパートと良好な人間関係を築くことが、業務を円滑に進めることにつながり、ひいては機関間の協力関係にも寄与します。

我々渉外担当が日々行う業務やカウンターパートとのやり取りの一つ一つが、将来の機関同士の信頼関係を築く大きな礎となっていきます。この重要な役割を担う責任を感じつつ、業務に邁進する日々です。

地域分析の専門家として総理報告に臨む

アラフィフの職員。昨今の中東地域情勢の緊迫を受け忙しい日々を送るが、ただ忙しいだけではなく、激動の時代を目の当たりにしているという臨場感もある。趣味は学生時代から続けているテニス。

国際部門で主に中東地域の調査分析を担当しています。ある日の流れを紹介します。

～出勤前に朝刊を読むのが習慣。国際面だけでなく内政や経済など様々な記事をチェックして、社会の動きへのアンテナを敏感にしておくとともに、官邸の動きが自分の仕事にどのように影響するのかシミュレーション。

出勤後は、担当地域の出来事を中心に報道を確認しながら、総理報告資料を作成。資料作成において、総理は何に関心があるのか、内調としてどのような情報を総理に伝えるべきかという視点は必須。複雑な中東情勢をいかにわかりやすく、重要な点を明確にして説明するかが腕の見せ所。

資料作成が一段落したら、自分とは異なる専門性を持つ同僚と最近の国際情勢について談笑。一見雑談に見えるが、異なる専門家同士の貴重な意見交換の時間である。

午後は、外国機関との協議に専門家として出席。使用言語は英語が多い。外国機関との意見交換は今後の調査分析においても有益。協議の後の隙間時間には、担当地域の情勢に関する各種資料や報道の読み込み、翌週以降の総理報告テーマのための情報収集計画の作成などしているともう夕方に。明日は総理報告実施日。当日の朝に最新の情報を資料に入れ込むため、総理報告の日の朝は早い。翌日の出勤時間をフレックス制度を利用していつもより早く設定してから退庁。～

このように一日中、情報収集、分析、資料作成で頭をフル回転させています。ですが、入室直後からこのように仕事ができたわけではありません。これまでずっと言語や地域情勢、分析の手法、担当地域以外のことも幅広く勉強してきました。専門家は一日にしてならず。そして、今日の私があるのは、情報とは何か、優れた分析とは何か、インテリジェンスでどのように国に貢献できるのか、ということを教えてくれた上司や先輩職員の支えのおかげだと思っています。

語学力や研究経験を活かし、専門性を深める

20代の若手職員。大学時代には主に朝鮮史を研究していました。また、海外留学を通じて、外国語の勉強に没頭していました。研究で学んだ知識や留学で培った語学力は現在の業務にも役立っています。

私は、北朝鮮情勢に関する情報収集・分析を担当しています。

情報収集業務では、国内外メディアをはじめとする様々な情報源から、知見を蓄積しています。分析業務では収集した情報を多角的な視座で検討したうえで、総理を含む政策部門に報告する資料を作成しています。

業務に取り組む上では、政策部門の要求に叶う情報を提供するためにはどうすればよいかを常に考えています。情報収集では、政策部門の広範囲にわたる情報関心に柔軟に対応するために、書籍等を通じて北朝鮮の政治・外交・経済の基礎的な構造を学び続けながら、日々、新しい幅広い分野のニュースをインプットしています。分析・資料作成の場面では、多忙な政策部門にも瞬時に理解していただくため、わかりやすい資料作成を心がけています。情報の正確性を検証したうえで、重要なものを統合し、明瞭な文章で説明することが求められます。上司の指導を受けながら、何度も推敲を重ね、資料を完成させていきます。

時には、急ピッチで報告資料を作成しなければならない場面もあります。迅速かつミスなく情報を集め、分析する必要があるため、緊張を伴いますが、チームワークで資料を作り上げ、無事報告を終えた時の達成感は何ものにも代えがたいと感じています。

私は一度民間企業を経験しましたが、大学時代に韓国朝鮮語や英語を学んだ経験や、朝鮮半島の歴史を研究した経験を生かすことができる仕事に就きたいと考え、内調に入庁しました。業務においては、外国機関との意見交換の場や、文献の翻訳等で、語学を使用していますし、歴史を研究した経験は、知識自体だけでなく、分析業務で、仮説を立てて検証したり、複数の資料を突き合わせて１つの結論を見いだしたりする場面でも役立っています。何より、自分が興味のある分野について、新たな知識を学ぶことができ、知的好奇心が満たされる日々を送っています。

国際テロ情報収集の最前線
国際テロ情報収集ユニット(CTU-J)の活動

30代の中堅職員。海外の大学院を卒業後、内調に入室。第一子誕生後、男性の育休も取得するなど積極的に子育てに参加し、趣味のゴルフはしばらくお預け中。子供と一緒にゴルフをプレイ出来る日を夢見て、毎晩ミルク作りや夜泣き対応に奮闘中。

私は、数年前まで現場担当官として最前線でテロ情報の収集に従事していました。現在は、現場の担当官の支援を担当しており、内調に入室して10年強になりますが、キャリアの半分以上をCTU-Jにおいて、海外でのテロ情報の収集に携わってきました。

宇宙、サイバー、AI分野等の技術が急速に進展する現代においても、各国機関は引き続き現場でのファーストハンドの情報収集の有用性を認識し、多くのアセットを割いているとされます。こうした背景には、依然として「人間の行動や感情」が大きなウェイトを占める政策分野があり、デジタル領域では得がたい現地で直接見聞きした情報、言い換えれば、政策決定者が求める「missing piece」を埋める作業の重要性があります。

言わずもがな、こうした秘密情報を海外で収集するためには、地域情勢の深い理解や語学力の向上などの自己研鑽に加え、一朝一夕では不可能な情報源の開拓など多くの時間と労力を要しますが、それ故、収集した情報が、政策部門の役に立った際の達成感は、格別です。

内調では、若手の段階から専門の研修を受けたり、在外公館での勤務の機会が豊富にあります。今後、我が国のインテリジェンス能力強化が進められていく中で、厳しい国際情勢を踏まえ必要性が高まっている情報収集のフィールドで、皆様と共にお仕事が出来ますことを心より楽しみにしております。

オープンソースからのインテリジェンスの生成

40代の中堅職員。大学時代は、政治、歴史など社会・人文科学分野について浅く広く勉強。特段の専門性は身に付きませんでしたが、意外にもこの雑学が業務に役立ったりもします。幅広い分野を対象にできることや官邸への情報面での貢献に魅力を感じ、入庁しました。

内調では、国内外の新聞、放送、雑誌等で報道される様々な情報の収集・分析等を行っています。内閣の重要政策に関する幅広い情報を取り扱っていると言えますが、政策決定者（官邸）の意思決定を下支えするという当室の役割を踏まえ、内閣にとって「今」重要な政策とは何か（例えば経済政策なのか、安全保障政策なのか）、官邸の情報関心は何か、といった観点から検討を行った上で業務を遂行しています。

そのためには、そのような報道がなされるに至った背景や関連する社会情勢についても情報収集・分析を行うことがありますが、大学時代に学んだ外交史、経済史など、歴史に関する知識もこれに役立っているように思います。新たな状況のように思えるものであっても、過去に類似の状況が発生していることもあり、過去の事例を分析することは、現在の状況の把握や今後の見通しを予測することにつながるためです。

日々の業務を振り返りますと、内外情勢のチェックや国会で議論されている政策の勉強など、気が抜けない面もありますが、総理をはじめとする官邸幹部の意思決定に資する情報の収集・分析に携われることは、内調職員ならではの醍醐味であるといえます。試験、官庁訪問と大変かと思いますが、皆様と一緒に働ける日を楽しみにしています。

ハイレベルな有識者の知見を生かす

50代男性職員。旅行好き、人好き、お菓子好き。学生時代に訪れたネパールのカラ・パタールとイランのイスファハンにはもう一度行ってみたい。

当室では、様々な分野における有識者から意見、提言を聴取する機会に多く恵まれる。付き合いのある有識者は、大学等の教育機関で教鞭を執られている方々のほかも、マスコミや民間企業等の関係者など非常に幅広い。彼らは高い専門性を有しており、話をすれば、非常に高度な分析をもとに、意見、提言を提供してくれる存在だ。ただし、そのためには、こちら側もそれに応じられるだけの十分な知識は必須であり、よく「自分の能力以上の情報は得られない」と言われるがそのとおりの世界である。有識者に会う前には、その専門分野における知見を深めておくのはもちろんのこと、著書や論文、講演録などにも目を通したうえで、当方の関心事項に沿ってどのような情報を聞き出すか、準備を行うことが必要である。とある有識者に質問したところ、「数日前に雑誌のコラムで書きましたが」と言われたこともある。どれだけ準備してもキリがないが、予習は怠ってはいけない。国際関係など文科系の領域とサイバーセキュリティなど理科系の領域が重なりあう学際的なアプローチも求められる。

著名な有識者と若いうちから接点を持つことになるが臆することはない。未熟でもしっかり勉強していればそれは相手に通じるものであり、それらが積み重なって信頼関係が厚くなり、自身も成長することになる。日々様々な分野のハイレベルな頭脳に触れる機会に恵まれた、非常に魅力のある業務であることは確かである。